

# よつばの手紙

2026.3

No.34

A photograph of a woman with long dark hair, wearing a dark grey cardigan over a floral-patterned dress, standing and looking towards a man. The man is seen from the back, wearing a blue sweater over a red turtleneck, and is seated at a black grand piano. He is looking at sheet music on the piano. The piano is in a room with light-colored walls and a window with sheer curtains in the background. A large blue musical note graphic is overlaid on the image.

特集 音楽は力  
～青梅市で活躍する女性～

行ってきました  
市内企業レポート  
さんかく図書室  
市の取り組み

# 聞いてみよう!

2025(令和7)年12月2日開催

## 女性が活躍できる職場づくりの秘訣

～市内企業で活躍している女性によるパネルディスカッションへ参加して～



女性が活躍できる職場づくりをテーマに、建設業と専門学校という異なる分野で活躍されているお二人によるパネルディスカッションに参加しました。

株式会社酒井組の須田晶子さんからは、131年続く建設会社を女性社長として引き継ぎ、ドローン事業の導入や地域活動への積極的な関わりを通じて、時代に合った働き方や人材確保を進めている取り組みについてお話がありました。女性の現場監督の登用にあたっては、ハラスメント研修や生理休暇、子連れ出勤の容認など、制度面と環境面の両方から整備・改善に取り組んでいる点が印象的でした。

また、学校法人和風会の師岡静枝さんからは、事務

方で初めての女性管理職として、職員一人ひとりの定期的なヒアリングを重ね、職場の風通しを改善してきた取り組みが紹介されました。立場や年齢に関係なく話を聞き、必要に応じて橋渡し役を担うことで、職員が安心して意見を出せる環境を整えてきたとのことでした。

これらの話を聞いて、女性が活躍できる職場づくりとは、特別な制度を導入することだけではなく、「話を聞く姿勢」や「一人ひとりを尊重する関係性」を日常的に積み重ねることが重要だと感じました。業種や規模に関係なく、対話の機会を意識的につくり、変化を恐れず少しずつ取り組むことが、結果として働きやすい職場につながるのだと学ぶことができました。

### パネラープロフィール



もろおかしずえ  
**師岡 静枝** 写真：本人提供  
学校法人和風会  
多摩リハビリテーション学院  
専門学校  
青梅市根ヶ布1丁目  
開校1996年  
<https://www.tama-riha.ac.jp/>

2016年から、学校法人和風会多摩リハビリテーション学院専門学校勤務。現在は、事務・情報システム課長として、マネジメント業務も含めた学校事務全般と、情報（インフラ）全般を担っています。



すだあきこ  
**須田 晶子** 写真：本人提供  
株式会社酒井組  
青梅市二俣尾3丁目  
創業1894年  
従業員 15人  
<https://sakaigumi.tokyo/>

130年以上の歴史を持つ株式会社酒井組の5代目代表取締役として、公共工事から森林調査や測量を行うドローン事業、その他マルシェなど、幅広い活動を行っています。

## 市内企業レポート

## 株式会社せきづか

～発泡素材の可能性を広げ、  
人を大切にする職場づくりを～

株式会社せきづかは、発泡素材の成型メーカーです。発泡スチロールの素材をもとに、その特性を活かした工業製品の生産を行っています。今回お話を伺ったのは、市川美由紀さん。2024年2月に代表取締役社長に就任し、現在は2名代表制で会社の経営を担っています。



いちかわ みゆき  
市川 美由紀  
写真撮影：編集委員

## 楽しく生き生きと働ける職場をめざして

従業員数はパートを含めて約80人。そのうち女性はおよそ半数近くを占め、20代から70代まで幅広い世代が元気に活躍しています。

「楽しく、和気あいあいとした職場づくり」をモットーに、従業員との信頼関係を築けるよう心掛けながら、みんなが生き生きと働ける職場の環境づくりに取り組んでいます。例えば、社内の整理整頓や業務改善など会社に貢献した内容を統括本部が審査し、毎月1回集計したポイントを5部門に付与。付与されたポイントは内容により異なり、そのポイントを使って、同じ部門の従業員同士が、飲食やお取り寄せ、夏場は熱中症対策用に飲み物やアイスの購入。部門によっては、クリスマスケーキの購入などに使っています。



写真：本人提供

## 経営者として

市川さんは25年前、母親の仕事を引き継ぐ形で入社しました。代表取締役社長就任後は、会社の経営に対する責任の重さを実感しました。

「女性も多いですが、成型現場は男性が中心に製品を製造しており、自分が経験していないことも多く、不安を感じることもあります。現場の声を聞きながら、少しでも、従業員の皆さんが作業を効率よく行え、また生産性が上げられように作業改善を行っていきたい」。

従業員とは、ちょっとした日常会話や挨拶をとりながら、コミュニケーションを大切にしています。

## 地域とともに成長していく

最近では、地域の経営者との交流の中で、自分自身も成長していると感じています。

人の考え方はさまざまなので、その人の個性を認め、長所を伸ばすことも代表としての大切な仕事だと思っています。

「従業員を守るためにも、会社の維持と売上の向上を目指して」いるので、新たな事業も視野に入れていきたいと思います。

どんなに苦しいことがあっても“何とかなる”、という気持ちを忘れず、地域の皆さまに少しでも役に立つような事業を展開し、地域とともに成長していく、よりよい会社づくりに励んでいきます。

## 株式会社せきづか

青梅市今井3丁目

1962年8月設立 従業員79人

ホームページ <https://www.sekizuka.co.jp/>



写真：本人提供



# 特集 音楽は力

## ～青梅市で活躍する女性～



2025(令和7)年11月6日取材 写真：本人提供

かわなべ

### 川鍋あかねさん

青梅市出身の52歳。音楽好きな母親の影響で7歳よりピアノを始める。武蔵野音楽大学器楽科を卒業。現在は、自宅で川鍋あかねピアノ教室を30年にわたり主宰。開始当初より、障がいを持った方にもピアノレッスンを行っている。

#### ピアノを始めたきっかけ

川鍋さんは、3きょうだいで、両親の最初の子として青梅市に生まれました。

保育士の母親は音楽が好きで、その影響を受けて、小学校1年生の時にピアノを習い始めました。中学2年生くらいからは音楽を志し始め、高校から音楽科に進みました。

大学卒業後は自宅で教室を主催し、以来、ピアノ教室をずっと続けています。

#### ピアノレッスンは個々人に合わせて

ピアノのレッスンは、個人レッスンが普通です。大切にしていることは、個々人に合わせて、楽しくレッスンができるように工夫することです。

導入では楽譜に色をつけたり、鍵盤にシールをつけたりすることもあります。

#### 障がいがあってもなくてもピアノを

知り合いのお母さんに、「ピアノを教えて」と頼まれたことがきっかけで、障がいのある子にも教えるようになりました。

障がいがあってもなくても、生徒に合わせてレッスンの内容を考えます。障がいがあるということで、別のテキストを使うことはせず、スピードやアプローチを変えて調整します。

教室には、大人も含めて40人の生徒がおり、そのうち5人が障がいを持っています。

#### ご自身と音楽の関わりについて

子どものころからピアノを続けているので、音楽は自分の一部のような感じがします。ピアノを弾いている時は、自分自身も楽しんでます。以前に弾いていた曲を演奏していると、人生のその

時、その場面につながって思い出されてきます。レッスンに通っている生徒たちはもちろん、多くの人にいい音楽を聴いて感動してもらい、同じ思いを感じていただきたいです。

## ピアノを教えていてよかったこと

子どもにピアノを教えていて良いことは、その子どもの成長を長く見ながら、人生に長く関わることです。個人レッスンは一対一の関係ですので、音楽を通してその人自身の内面を出しているせいか、悩みを相談されたりすることも多く、大人になってから自分の子どもを連れて訪ねてくれることもあります。

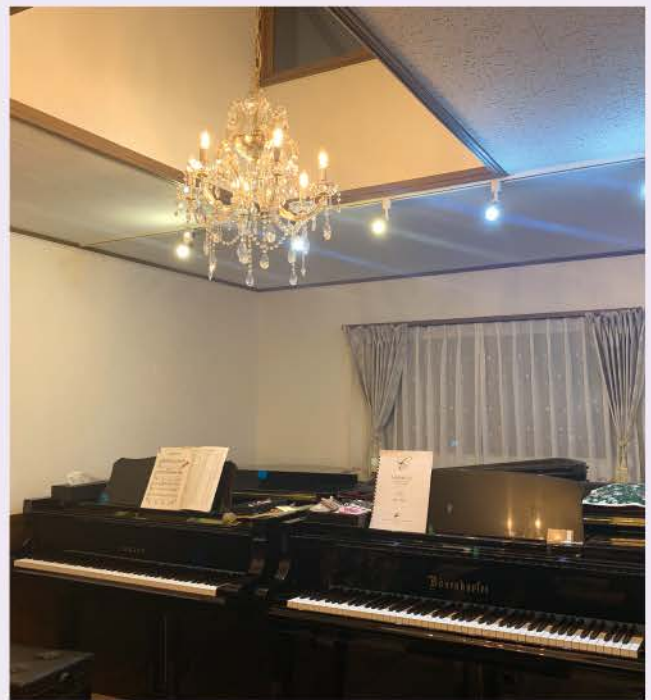
話が苦手な子どもや、自己肯定感が低くなっている子どもは、ピアノを通して自己表現することができて自信がついたり、ピアノのテキストが進むことが楽しみの一つになっています。

一見小さなことでも、テキストが進むような成功体験の積み重ねは、音楽や演奏だけではなく他のことにもつながると思っています。成功体験を積んで自信をつけて欲しいのです。

生徒それぞれにあったやり方を見つけ教えることが醍醐味だいごみでもあります。



写真撮影：編集委員



写真撮影：編集委員

## 発表会は聴く人がいる

発表会では、チャレンジ重視で生徒が弾きたい曲を自分で決めています。

自分で選んだ好きな曲ならば、一生懸命がんばることができ、発表会ならではの達成感を味わうことができます。連弾の選曲も自由です。

一生懸命練習し、達成感を味わうことが大きな自信につながります。全力で努力を積み重ねることで、本番に楽しく演奏できることを大切にしています。

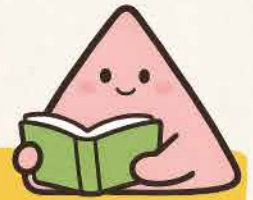
発表会は、ステージでの演奏を聴く人がいてはじめて成立します。そのための選曲の時は、「本人が好きな曲+聴いている人も楽しめる曲」を生徒によく考えてもらい選ぶようにしています。

発表会は2部制です。1部はソロ、2部は連弾で、親子連弾をする方もたくさんいます。2部の曲紹介は本人がマイクで紹介します。生徒により、曲への思いもさまざまで、とても興味深いです。

今後も子どもたちの成長を見守り関わられることを喜びつつ、大人になってからも一緒にピアノ演奏ができればすてきだと思います。

音楽は素晴らしいです。

子どもたちにも、音楽のある人生を送っていただくことが私の願いです。



## 『境界を生きる 性と生のはざままで』

毎日新聞「境界を生きる」取材班 著（毎日新聞出版）

心と体の性別が一致しない人だけでなく、生まれつき男女どちらかに分類できない人と、その家族が抱える葛藤を丁寧に描いた貴重な一冊である。

本書を通じて、私たちが無意識に「男か女か」という2択を前提としていること自体が、時にどれほど残酷になり得るかを痛感させられた。

もちろん、性別を分けることが必要な場面はある。しかし、日常生活の多くは、本来の性別を超えた“人と人”の関係で成り立っているのではないかと気づかされる。

さまざまな性のあり方を知ることで、私たちの視野は少しずつ広がっていく。本書は、石橋湛山記念早稲田ジャーナリズム大賞受賞（草の根民主主義部門・2010年）、第29回ファイザー医学記事賞優秀賞を受賞している。



## 『介護未満の父に起きたこと』

ジェーン・スー 著（新潮社 / 新書）

「介護未満」という言葉は、その時期に起こり得ることを的確に表現している。家族があえて見守るという選択もある一方で、著者はその期間を少しでも良いものにしようと奮闘する。父の幸せを軸にゴールを定め、感情に流されすぎず、効率的・合理的に支えようとする姿勢が印象的だ。また、その経験を一冊の本としてまとめてしまう行動力は、コラムニストやラジオパーソナリティとして、したたかさも感じられる。

介護未満の親と向き合うとき、湧き上がる感情をどう扱い、どう関わっていくか。そのヒントが、この本には静かにちりばめられている。



## 『働くということ「能力主義」を超えて』

勅使川原真衣 著（集英社 / 新書）

本書は、「能力が高い人を集めれば組織は成果を出せる」という思い込みに気づかせてくれる。著者は、重要なのは個々の能力ではなく、凸凹を持ち寄るような「関係性」をつくることであり、特性を活かせる環境こそが力を引き出すと指摘する。

後半の事例も具体的に理解しやすく、多様な人がいる社会で、能力だけに注目するのではなく、互いをどう活かし合うかを考えることの大切さを知り、それは日常生活にも活かせる視点だと感じた。



# 市の取り組み

青梅市では、本庁舎ロビーにて、ジェンダー平等社会への推進に向けた啓発展示を行っています。

## 男女共同参画週間 (6月23日~29日)

男女共同参画週間は、「男女共同参画社会基本法」の公布・施行日である1999（平成11）年6月23日を踏まえ、毎年6月23日から29日までの1週間を「男女共同参画週間」として、さまざまな取り組みを通じ、男女共同参画社会基本法の目的や基本理念について理解を深めることを目指すために設けられました。

本市では、中央図書館とも連携し、男女共同参画だけではなくジェンダー平等や、無意識の思い込み、無意識の偏見などのアンコンシャスバイアスなども取り上げた展示を行っています。

<https://www.gender.go.jp/public/week/index.html> (20260114情報閲覧)



## 女性に対する暴力をなくす運動週間 (11月12日~25日)

暴力は、性別や立場、加害者・被害者の関係を問わず、決して許されるものではありません。なかでも、深刻な状況にある女性に対する暴力に早急に対応する必要があります。この運動のシンボルマークはパープルリボンです。

東京都では、運動期間にあわせて、都庁本庁舎などのライトアップを行い、広く啓発を行っています。

また、11月は犯罪被害者月間でもあり、子どもを含む性犯罪について、関係機関と連携しながら周知・啓発に取り組んでいます。

一人ひとりが犯罪被害について正しく理解し、被害にあった方を支える社会を目指しています。

[https://www.gender.go.jp/policy/no\\_violence/no\\_violence\\_act/index.html](https://www.gender.go.jp/policy/no_violence/no_violence_act/index.html) (20260114情報閲覧)

<https://www.metro.tokyo.lg.jp/information/press/2025/10/2025102907> (20260114情報閲覧)

<https://www.npa.go.jp/hanzaihigai/koukei/week.html#gsc.tab=0> (20260114情報閲覧)



## 国際女性デー (3月8日)

3月8日は「国際女性デー」です。

この日は、1975年の「国際婦人年」に国連で提唱され、1977年の国連総会で、世界各国が記念する日として決まりました。

3月8日は、女性への感謝や敬意を表す日として、「ミモザの日」とも呼ばれています。

とくにイタリアでは、感謝の気持ちを込めてミモザの花を贈る習慣があり、黄色いミモザは国際女性デーをイメージする花として、親しまれています。

本市では、2025（令和7）年度より、国際女性デーの啓発展示を行っています。

今後は、講演会なども予定しています。ぜひ、お気軽にご参加ください。

[https://www.gender.go.jp/international/int\\_un\\_kaigi/int\\_iwd/index.html](https://www.gender.go.jp/international/int_un_kaigi/int_iwd/index.html) (20260114情報閲覧)



## 女性の総合相談

DV、夫婦や親子の問題、生き方、人間関係に関する相談など

### ●東京ウィメンズプラザ

TEL 03-5467-2455 (一般相談)

TEL 03-5467-1721 (DV専用)

毎日9時～21時 (年末年始は休み)

### ●東京都女性相談支援センター多摩支所

TEL 042-522-4232

月～金曜日9時～16時 (土日祝・年末年始は休み)

### ●青梅市役所

TEL 0428-22-1111

月～金曜日8時30分～17時

(土日祝・年末年始は休み)

## 男性のための悩み相談

### ●東京ウィメンズプラザ

TEL 03-3400-5313

月・水・木曜日 16時～20時

土曜日 13時～17時 (祝・年末年始は休み)

※男性相談専門の相談員が対応します

※対面相談も可 上記電話にて予約をしてください

## Tokyo LGBT 相談

### ●東京都性自認及び性的指向に関する専門電話相談

TEL 050-3647-1448

火・金曜日 18時～22時 (祝・年末年始は休み)

※性自認及び性的指向に関する様々な悩みや不安について、ご本人又はご家族等からの相談を受け付けています

## 女性のためのカウンセリング「はればれ」

毎月 第1・第3金曜日 (祝・年末年始は休み)

①9:30 ②10:30 ③13:10 ④14:10

各50分

※青梅市市民安全課 (TEL 0428-22-1111 内線2325 または 直通電話 0428-22-2816) で事前予約をしてください。

## DVに関するLINE相談

【利用方法↓】

### ●ささえるライン@東京

毎日14時～20時

(年末年始・7月第3日曜日は休み)



## 性暴力の悩み相談

年齢・性別・セクシュアリティを問わず、匿名で相談できます。

### ●内閣府 Cure time (キュアタイム)

メールでの相談のほか、毎日17時～21時はチャットで相談することも可能です。 <https://curetime.jp/>

### ●東京都性犯罪・性暴力被害者ワンストップ支援センター

子供・保護者専用性被害相談ホットライン 24時間365日受付

(都内) 0120-333-891 (都外) 03-6811-0850

## 編集後記

本の紹介を通して、誰もが自分らしく生きるためには、まずは知ることが大切であり、周囲が理解しながら、その人の持つ力をどう引き出していけるかを考えることが重要だと感じた。(三川)

今回は、女性であり親であり、そして音楽という共通点がたくさんある方への取材をさせていただき、自身にとっても大変興味深い内容となりました。皆様にも楽しく読んでいただければ幸いです。(網野)

市内で活躍する女性経営者の方からお話を聞いていると、「自分も頑張らなくては」という刺激をもらうことができます。よつばの手紙を見てくださる皆さまに、その人の魅力が伝わるよう日々精進してまいります。(須崎)

今回、パネルディスカッションを担当させて頂きました。女性活躍が進む時代において、現場で挑戦を重ねてきたお一人の経験は大きな示唆に富んでいました。地域を巻き込む活動や組織を支える日々の努力、その背景にある強い覚悟が特に印象的でした。多様な働き方が求められる今、柔軟に学び続ける姿勢こそが職場づくりの鍵だと感じた時間でした。(森本)

よつばの手紙は、  
「青梅市ジェンダー平等推進計画」  
にもとづき、  
ジェンダー平等の実現を目指し、  
編集委員と青梅市職員が協働で  
編集・発行しています。  
ぜひ、皆様のご意見・ご感想を  
お寄せください。

誰でも主役 青梅市ジェンダー平等情報紙 よつばの手紙 第34号

発行 | 2026(令和8)年3月 青梅市市民安全課

電話 | 0428-22-1111 (内線2325)

編集 | 青梅市ジェンダー平等情報紙編集委員会

三川みどり、網野絵美、須崎晃輔、森本麻弓



よつばの手紙  
バックナンバー  
はこちら

無断転載を禁じます